

日本クリスチャン・アシュラム連盟

冬季号

開心
静聴
充滿
献身
奉仕

日本アシュラム

Winter 1980

United Christian Ashrams of Japan

30

連盟は創始者の祈りによって各地に生れたブライミリーの全国的な文ありであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

黙想

〈福音の時〉

あなたの口を広くあけよ

林 鐘守 牧師

(韓国アシュラム指導者)

聖書・詩篇八一篇一〇節

第三回国際アシュラムに韓国から私の他に金憲基牧師、張永根牧師の三名が参加できて感謝です。インドに始まったアシュラムが日本で盛に守られていることを聞き、ぜひ学んで帰り、私共の国の教会にもとり入れたいと思ってきました。私共の教会の成長ぶりは御承知の通りですが、開心、静聴、充滿などの生活が弱いので、アシュラムによって質量共に充実した教会になるよう期待しています。詩篇八一篇一〇節により私共は、まず祈りの口を大きくあけるべきです。果の中のひな鳥は餌をもった母鳥が帰ると、可愛い口を大きくあけて餌をもらおうと大騒ぎをします。神の子らである私共も神に向かって口を大きくあけ、御言(命の糧)をあえぐように求めるべきです。(詩篇一一九篇一三一節)にある通りです。早天に雨を待ち望む大地が割れて口をあけるように、聖霊を求めるべきです。彼らは雨を待つように私を待ち望み、春の雨を仰ぐように口を開いて仰いだ(ヨブ記二九章二三節)

私共が恵まれないのは求めないからであり、少ししか恵まれないのは求め方が少ないからです。もっと大きな恵みを受

けようと神に向かって大きな口をあけようではありませんか。

次には「さんびの口」を大きくあけることです。「われらの神は大いなる王なる、大いにほめたたうべきなり」と詩篇にありますが、恵みを受けた者は感謝のために口を大きくあけます。神の子らはさんびを惜しんではいけません。心からのさんびの声をあげましょう。

二十年程前の六月二十五日(日)韓国動乱のため多くの信者が捕われ殺され、地獄に落ちたようになりました。幼ない中学生まで前線に立って戦いましたが、北軍の強い手に二十名が捕まり、山中に連行され殺されました。共産軍将校が一同に向い、「何か最後の願いがあれば言え」とのこと、一人の少年が「さんびかを歌わせて下さい」と言って「主よ、みもとに近づかん……」の有名なさんびかを山もゆり動くかのように大声で歌い出しました。一節が終った時、ダタンと一斉に発砲されました。

暫らくして彼をやり起す者があり、見ると共産軍の将校が「私もクリスチャンであった。早く一緒に逃げよう」と南軍に帰順しました。これは私が高校教師をしていた時、一人の弟子から証しされたことです。

恨みや不平にはすぐに口を開くが、感謝と讚美のために、口を開かないのはなぜですか。苦難と迫害の中にも神をさんびしたパウロのような人が御用に立ち得るのです。ウエスレーと共に「主イエスのみいつとみ恵みとを言の限りに讚えまほし」(讚六二)と歌いたいものです。

最後に私共は証しのために口を開くべきです。主の恵みと愛とを証ししないなら、信者は職務怠慢になります。初代の使徒たちは「イエスの名により語ることは一切ならぬ」と言われても敢えて証しを続けました。(使徒行伝四章)

韓国動乱の前に私共の国では共産党による流血革命があり、麗水のライ病院の孫師と二人の高校生の息子が殉教の死をとげました。牧師は共産兵によって剣で口を切裂かれても主キリストの証しをやめませんでした。韓国はアジアでクリスチャンが最も多くいます。日本帝国時代や共産軍の動乱から受けた流血の上に立てられた教会であるからです。

雑談や世間話にはいくらでも口を開くのに、「イエスは主なり」と言うためになぜ口を開かないのか。日本は立派な国土、歴史、文化、教養を持っているのになぜ教会は振わないのか。時が良くて悪くても、主を証しするために口を大きくあける信者が現われてほしい。

地の果てまで主の証人として立上り、共に力強く宣教のわざを進めようではありませんか。日本アシュラムの上に主の恵みを祈ります。

編集人 海老沢 直道
発行人 大石 嗣郎
定価 一部 50円 千 50円

〔証詞〕

キリスト中心の生活へ

米国加州 O・デルラム

暫らく黙祷をいたしましょう。スタンレー・ジョーンズ師は度々私たちに『何を祈るかに気をつけなさい。祈る目的に注意しなさい。なぜなら祈るあなた自身が、その答になるから』と言われました。

私は長い間、南加州のユニオン・カーバイト会社に勤めましたが、最近独立して自分の仕事を始めることにしました。販売促進のサービスマンでもいろいろな工業技師が使用する機械材料を販売してきました。商談のあとで買手がセールスマンから時々酒を御馳走になるといふ悪い習慣があります。私はそうして販売を促進する間に自分自身がアルコール中毒になってしまいました。

仕事は進まず、生活は苦しくなり、家庭は乱れ、息子は家出をし、妻は離婚したいと裁判に訴えました。そこで私はクリスチャンの家庭問題相談員を探しました。そして特に婦人の相談員を求めました。これは妻の問題だからと考えました。婦人のカウンセラーの所へ行きますと私たち夫婦を別々にして話を聞いたり、また一緒に話してくれました。そして彼女は『クリスチャンとは何か知っていますか』と尋ねました。私は前からあ

る教会に入会して日曜学校の教師になってくれと頼まれたことがありましたが、この時まで誰も私がクリスチャンになることを勧めてくれる人がいませんでした。『悔改めて信者になったら何をすればよいのですか』と聞きました。

相談員は『キリスト中心の教会に入会しなさい。そしてアシュラムに出席しなさい』と言いました。『アシュラムって何ですか』と私が尋ねると、彼女は加州各地のアシュラム案内書をくれましたので、私はその一つのレッドウッド・アシュラムに出席することになりました。

私はそのアシュラムに二・三年ほど出席している間に、ジョーンズ師の御指導を受けて、私の生命、私の生活は全く改善させられてしまいました。その時、先生が私に『あなたは何をしているのか』ときかれたので『工業機械の材料を販売しています』と答えました。先生は『あなたはアシュラムを売ってはどうか』と言われました。そこでアシュラムの委員会や役員会に出席して、この運動に協力してきました。そして最近その地区役員や役員に推選されました。

私たち夫婦は最近、加州にあるキリスト中心の教会、ガーデングローブ教会に属することになりました。この教会から『力の時』というテレビ番組が放送されているので、ご存知の方も多いと思います。これは未信者向のプログラムです。私は今年十一月十三日で六五才になる予定です。私たちは仕事を通して主の御

用ができるような新しい仕事を始めることにしました。それは工業機械だけでなく、キリスト教の文書を販売して伝道に少しでも役立つと願っています。私の教会では『主イエスがあなたを愛しています。私もそうします』とお互いの挨拶で言うことになっていきます。今日もその挨拶をして終りたいと思います。このたびアシュラムに参加することができて、私はほんとうに幸いです。

〔証詞〕

聖書と石鱈

大阪市 木本 郁

私は若い時に石鱈工場で働いていました。軍隊であとから入った新兵の中に立派なクリスチャンがいて、彼の人格や精神に打たれ、除隊したら自分も教会へ行こうと心秘かに思いました。予定より早く除隊になったので早速大阪に帰り教会へ出席しました。その教会の牧師が実に立派な人で私を感動させました。

彼は強盗、殺人未遂、脱獄などのため二十八年も投獄された人でした。所が獄中で信仰を持ち、鬼松といわれた罪人が模範囚となり、恩赦によって出獄した亀水松太郎氏です。彼は重罪犯として足に鎖をつけられて石炭掘りをしていました。ある時、地底で何か変な音がすると思ふ途端、にわか地震の如く落盤が起り何も判らなくなりました。その時、誰か

が彼をつかまえて遠くへ引出してくれました。彼は模範囚になっていたの看守所がつかれてくれたと思いましたが、看守たちは死んでいました。『神は生きておられる』と知った彼はひれ伏して感謝し、『私を伝道者にして下さい』と祈りました。終身刑の彼にそんな事ができる時が来るとは思われないのに、恩赦があり出獄して伝道者になりました。

『神が生きておられるのを知りたいなら、私を見なさい』と言われ、私は直ちに神を信じてことができました。教会へ行き出して僅か四ヶ月後のクリスマスに洗礼を受けました。その時、聖霊が鳩の如く下る経験をしました。私は嬉しくて足が地につかず、友人たちは私をキリスト狂になったと言いました。

私は日曜礼拝を厳守するため、会社を辞して自給独立し、片手に聖書、片手に石鱈を持って、信仰と生活との両立一致にとめました。当時の石鱈は一年もすると変色したので研究努力の結果、受洗後四年で新種を製造することに成功しました。業界で大いに働いたが、十二年前に引退して専らYMCA、ギデオンの朝禱会、センター等、キリスト教事業に奉仕させて頂いています。今後は中路先生の弟子に加えて頂き、アシュラム運動のためにも御奉仕したいと願っています。

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

(二) 聖書十章九節

ドイツ・聖地・インド

第四回国際アシュラム

生活刷新の好機

第四回の国際クリスチャン・アシュラムは米国連盟の企画の下に、世界の三地区で開かれることになった。

第一地点はドイツのオベルアメルガウで九月二日から二八日まで受難劇を観てミューニヒ市観光の後、二九日から十月六日まで第二地点の聖地イスラエル観光とガリラヤ湖畔のホテルで退修会を持ち、ジョーンズ博士記念館建設予定地で聖餐式を守る予定。

第三地点はインドのニューデリー市に十月七日到着、九日から十二日までサトタル(ヒマラヤ山麓)でクリスチャン・アシュラム開始五十周年感謝祭が守られ、十三日から十日間、ジョーンズ博士の伝道地、同夫人の設立した学校その他を見て、ネパール各地を視察して帰国することになっている。

指導者は聖地ガリラヤ及びインドにおける諸集会のために、マシューズ監督夫妻、ワグナー牧師、バーグ牧師、ハンター牧師、ウエブスター夫人、ライケンス牧師、タイタス牧師などが用意されている。

全期間は九月二日から十月二四日の一ヶ月にわたり、全費用は金二八九五ドル(約七十二万円)である。

日本アシュラムの参加計画

右のような米国連盟の全計画に、私共日本から参加することは殆んど不可能と思われるので、わが総務局では、第三地点つまりインド・ネパール地区への参加だけでも実現したいと考え、十月七日東

日本クリスチャン・アシュラム

二五周年記念退修会

今秋十一月下旬開催予定

わが日本を愛し、日本の教会のために特に祈っておられたスタンレー・ジョーンズ師が、戦後間もなくから二、三年おきに来日して全国を伝道巡回され、多くの求道決心者を起されたことは衆知の通りである。

師はその第四回目の全国行脚の途上、既にインドに於て始めておられたクリスチャン・アシュラムを初めてわが国において開催された。当時はNCC内に設けられたジョーンズ伝道委員会が主催し、関係各派から百数十名が参加したのであるが、従来の修養会とはちがひ、勿論研

京発、八日ニューデリー、九日サトタル到着、十日から十二日まで五十年記念祝会に出席、十三、四日ラクナウ、十六日からネパール国カトマンズ、バラナ、アグラ、ジャイプールを視察し、二十二日帰国する予定を立てた。

この期間は十六日間で約半分となり、経費も約三十万円ですむと思われる。既に五名の申込みがあるが、尚数名の参加を受けたいと考えている。

都合で参加されない多くのわが国アシュラムの同志兄弟姉妹にお願いしたいことは、第四回の全プログラムと日本班の参加のため御加禱下さることである。

修会や協議会とちがって、終始キリスト中心で聖霊による深い取扱いを受けた一同は、非常な感銘をもって一大決意に立上り、誓約書に署名して、各地の教会にその霊火をもち帰った。それは一九五五年(昭和三十年)二月のことであった。

爾来二年おきに、最近は毎年定期的な全国各地でアシュラムが守られるようになった。それもジョーンズ博士が最後の日本全国伝道と八地区におけるアシュラムを指導され、ぜひ自分が来られなくなっても皆で続いて守ってくださるようにと連盟の組織を指示して帰られた結果によ

(三) 聖霊の啓導と充滿
(四) 神の国の体験と献身
(五) 教会への奉仕と伝道

るのである。

そこで私共はサトタル五十年祭と共に日本アシュラムの二五年を祝い感謝することは当然なすべきことと示された次第である。来る十一月二十四日(月)〜二十六日(水)東山荘において開催する予定、内容詳細は理事会で決定次第公表されるが既にインドのタイタス師が祝賀のためまた指導者として来援の内諾をよこしている。

開東地区委員会は去十一月十三日(江古田にて)と一月十八日(池の上にて)の二回に於て協議の結果、第十八回の関東アシュラム(八〇年秋予定)を、この日本アシュラム二五年感謝退修会に合流し同時に開催することに賛意を表した。全国各地区も同様、合流し協賛されるように総務局では期待している。

各地だより

道南アシュラム(第九回報告)

去十一月二日(金)夜から、函館千歳教会において、連盟理事長の海老沢宣道牧師を助言者として迎え、開会礼拝(白川委員長) 開心の時を持ち、三日(土)早朝の静聴、午前の福音の時、午後の祈の細胞、夜の恵みの時、四日(日)朝の静聴、礼拝説教、午後の充滿の時まで初めは二〇名位が日曜日は四〇名位にまで増加、終始「イエスは主である」を体得するように導かれ、多くの者が信仰を新しくされたと感謝の祈りを捧げて閉会し

(ビリビ書 第二章 十一節)

た。他教会からも数名の婦人方が参加し、今後の協力を約束して行った。

▼関西アシュラム(第十四回報告)

去十一月二日(木)午後から大阪の淀川善隣館において、中路嶋雄副理事長辻中昭一委員長、その他地区委員の分担により、開心、静聴、福音、恵み、祈りの細胞、聖書講解、充滿の時が持たれ、参加は三十名の少数であったが、一同が主題の『キリストわが内に在りて』ガラテヤ書二章二〇節の御言を体得することができ大いなる感謝を捧げ次回まで互に祈り合う約束をして散会した。

▼中国アシュラム(報告)

去る十一月二四日(土)午後から広島清流教会(谷本清牧師)に於て、山根可式師を助言者に迎え、開心、証しの時を、翌二五日(日)静聴と礼拝説教をもって終了した。参加者七〇名の多数。

▼四国アシュラム(第十四回報告)

去る十二月六日から二泊三日松山済美会館にて開催。助言者に車潤順女史を招き、主題『明渡しと宣教』の下、三回のメッセージを受け一同感泣し悔改め大きな恵みが充滿した。伊藤栄一師も来援され静聴や聖書の時を指導して頂き、ファミリーアワーでは運動強化のため毎月祈ること、地区内各地で小アシュラムの開催などを相談した。

▼江古田教会新年黙想会

(第五回)
去る一月二十日(日)朝の準備祈禱会

に初まり、板橋教会の花房光江牧師を迎えて、礼拝説教「恵みと平安」を伺い、中食時にファミリーアワー、午後一時から黙想会として「キリスト者とは」と題し、祈りを深く大きくすべきことを教えられ、「充滿の時」は海老沢牧師の奨励により一同が熱心な祈りを捧げ決断を新しくされた。礼拝は六〇名、午後には二五名が参加した。

▼東京城北アシュラム

(第十回予告)
来る二月十一日(月)午前九時半受付十時開会礼拝(島隆三師) 開心の時(海老沢師) 中食ファミリーアワー、静聴の時(大石嗣郎師) 恵みの時(神山良雄師) 祈りの細胞(五分団で分ち合い) 充滿と献身の時(山根可式師)の順序で守られ午後四時半に散会の予定。
会場は中野区野方一ノ五五、天門教会主催は池ノ上、江古田、新宿西、更生、天門の五教会連合の城北アシュラム委員会(委員長山根可式、庶務松田浄) 参加費は中食代共一千元。

尚、城北アシュラム祈禱会は従来委員中心に守ってきたが今後は靈交を持続けるため、参加者有志を加えて拡大祈禱会を年間を通じて偶数月に守ることとし、次回は四月二七日(日)午後三時から更生教会にて守る予定。

▼西川口教会アシュラム(予告)

来る二月十六日(土) から十七日(日)にかけて、西川口教会(川口市西青木ノ二五)において横山義孝師(関東地区委

員長)とブラジル聖北教会の小野助一牧師を助言者として開催、六〇名の参加者があるものと期待している。

▼東京城西アシュラム(予告)

来る四月二九日(火)天皇誕生日に東小金井教会(淵江牧師、小金井市東東二ノ一四)において一日アシュラムが開催される。これには高円寺、大宮前、元標、国立の諸教会が協力することになっているが、それ以外からの参加も勿論のこと歓迎されている。

▼日本クリスチャン・アシュラム連盟の全国理事会(予告)

来る三月十日(月)正午より十一日(火)正午まで全国理事会が東京のみやこ荘において開かれ、過去二年間の報告、理事役員改選、来る二年間の計画や予算が協議される。大切な集会であるから全国同志の御加禱を切望する。

▼訃報(連盟理事) 萱沼孝文氏には、

去一月七日午前九時、心不全のため東京池袋の癌研究所で召天された。氏は友愛家具社を創立、全国の教会建築に貢献される傍、松沢教会長老、イエスの友会中央委員、朝禱会世話人、わがアシュラム連盟の結成時から協力、関東地区アシュラム委員としても毎回出席してよい奉仕をされた。行年七十五。

去十三日(日)午後二時から告別式には連盟総務の大石理事が参列、理事一同からの御花料を供えて弔意を表し、心から永遠の平安を祈った。御遺族の上に主の御慰めがゆたかにあるように。

連盟賛助の祈り

久しぶり前号に賛助献金の報告をのせましたが、その後引続いて左の方々から温かい協力があり感謝です。昨年度分のまだの方々は早目にお願ひ申し上げます。

総務理事 大石 嗣 郎

- 東北地区(六万五千元)
- 中部地区(三万円)
- 碑文谷教会、大石嗣郎、海老沢宣道、横山義孝、鈴木留蔵(各一万円)
- 関西地区(五万円)
- 村上 東(三万円)
- 宇都宮充(一万五千元)
- 江古田教会(七千元)
- アパルム(広告献金)

(以上一月末現在)

最新刊

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 千60円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台1-18-1 海老沢方

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱生活のことである。

東京都目黒区中央町1-21-10 碑文谷教会気付 日本クリスチャン・アシュラム連盟